

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	石材調複層仕上塗材（複層塗材E）
製品名	キクスイ スキンタイル （多彩凹凸状・凸部処理状模様）

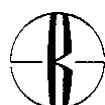
下塗材：エポキシ変性アクリル樹脂エマルジョン系下塗材

「キクスイ プライマー スーパーE」

上塗材：アクリルシリコン樹脂クリヤー

「ビュートップシリコンクリヤーつや消し」

第7版 作成日： 2013年12月 4日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 石材調複層仕上塗材 (複層塗材E)
- 製品名 : キクスイ スキンタイル
- 上塗材 : アクリルシリコン樹脂クリヤー「ビュートップシリコンクリヤー」
- 素地 : コンクリート・セメントモルタル 等
- 部位 : 内外部壁面
- 仕上がり形状 : 多彩凹凸状・凸部処理状模様
- 工程

新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (23°C)	所要量	
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下塗り	キクスイ プライマースーパーE 主材：15kg 無希釈	刷毛 ウールローラー エアレススプレー	1	3以上	80~150m ² /15kg 0.10~0.19kg/m ²	
主材塗り	基層塗り	キクスイ スキンタイル 主材：20kg 清水：1.3~1.7L	リシガン 口径：5~6mm 吹圧：0.5~0.6MPa	1	6以上	10~13m ² /20kg 1.5~2.0 kg/m ²
	模様塗り	キクスイ スキンタイル 主材：20kg 清水：0.35~0.5L	タイルガン 口径：6~8mm 吹圧：0.3~0.4MPa	1	24以上 凸部処理 0.5以内	20~25m ² /20kg 0.8~1.0 kg/m ²
上塗り	ビュートップシリコン クリヤーつや消し 主材：15kg 清水：0.7~1.5L	エアレススプレー ウールローラー はけ等	2	工程内 5以上	50~68m ² /15kg 0.22~0.30kg/m ²	

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。

● 荷 姿

下塗材	：	キクスイ プライマースーパーE	NET	：	15 kg/缶
主 材	：	キクスイ スキンマイル	NET	：	20 kg/缶
上塗材	：	ビュートップシリコンクリヤーつや消し	NET	：	15 kg/缶

成分表

● 下塗材：キクスイ プライマースーパーE

内 容	重 量 (%)
エポキシ変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

● 主 材：キクスイ スキンマイル

アクリル樹脂エマルジョン	15.2
水	8.8
添加剤	1.5
着色骨材・陶磁器質砕粒	74.5
計	100.0

● 上塗材：ビュートップシリコンクリヤーつや消し

アクリルシリコーン共重合樹脂エマルジョン	62.7
水	14.3
つや消し剤	6.3
添加剤	16.2
防藻・防カビ剤	0.5
計	100.0

性能試験成績書

仕上げの種類	石材調複層塗材E		
製品名	キクスイ スキンタイル		
供試材料	下塗材：キクスイ プライマー スーパーE 主 材：キクスイ スキンタイル 上塗材：ビュートップシリコンクリヤーつや消し		
試験方法	日本建築仕上材工業会 石材調仕上塗材E NSKS-11 準拠		
項目	規 定	結 果	
低温安定性	塊がなく、組成物の分離及び凝集がないこと。	合 格	
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	ひび割れがないこと。	合 格	
付着強さ	標準状態	0.5 N/mm ² 以上	0.6
	浸水後	0.3 N/mm ² 以上	0.5
温冷繰返し	試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。	合 格	
透水性 B法	0.5 ml 以下	0.1	
耐衝撃性	ひび割れ、著しい変形及びはがれがないこと。	合 格	
耐候性 A法	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。	合 格	
耐水性	水に96時間浸しても異常がないこと	合 格	
-以下余白-			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。

施工にあたっての要点

●下地

- 【1】 下地がコンクリート、モルタルの場合は素地の乾燥は十分行ない、含水率 10%以下、pH 10 以下で施工して下さい。
- 【2】 外部の下地で巣穴、段差などがある場合、セメント系下地調整塗材「BR # 15」等で処理して下さい。
- 【3】 押出成形セメント板、GRC 板などには、下塗材として「キクスイ プライマーEPW」を使用して下さい。
- 【4】 ALC パネル、多孔質下地、粗面、その他下地に問題がある場合にはセメント系下地調整塗材「BR # 15」等で下地処理を行なって下さい。
- 【5】 下地のひび割れ、破損、浮きなどはBR工法等で適切な処理をして下さい。
- 【6】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去し、適切な下地調整を行ってから施工して下さい。
- 【7】 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行なった面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、並びに下地がケイ酸カルシウム板、スレート板等の場合には適切な下塗材の選択が必要です。
- 【8】 改修の場合は、下地（旧塗膜）に適した下地調整材及び下塗材の選択が必要です。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。
- 【9】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

●工法

1. 材料の取扱い

- 【1】 製品は使用前に均一にミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【2】 希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めて下さい。
- 【3】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。

2. 主材塗り

- 【1】 主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。

3. 目地割り・墨出し

- 【1】 基準となる墨出しは工事管理者が行って下さい。
- 【2】 目地割りは、施工面の端部・開口部の納まりについて検討して下さい。
- 【3】 コーキング部は、全て目地として生かして下さい。

4. 目地棒張り

- 【1】 墨打ち部分に沿ってテープ目地を順次正確に張り付けます。

5. 主材塗り

- 【1】 主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。

6. 目地棒取り

- 【1】 目地棒取りは、主材が十分乾燥してから取り除いて下さい。

7. 上塗り

- 【1】 上塗材は、2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。
- 【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。

8. 施工方法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止して下さい。
- 【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

【5】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【4】 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれ、色むらが早期に生じることがあります。
- 【5】 JIS A 6909 建築用仕上塗材 複層仕上げ塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品ではありません。

- 【6】 被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、仕上がり感が異なって見える場合があります。特に、塗継ぎ箇所ですりムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。
- 【7】 旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。
- 【8】 改修・改装工事の場合は、弊社最寄りの営業所にご相談ください。
- 【9】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧 MSD S）を参照して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。